

風土記の丘の花だより 186

今、そしてこれから見られる植物（2023年5月20日）

暖かさを通り越して暑い日が続きました。草木や虫たちはさぞかしビックリしたことでしょうね。今回も4種類の植物を紹介します。



1つ目はコジキイチゴです。細長く白い花びらが特徴です。すでに花のピークは過ぎて、わずかな残り花とまだ青い実を見ることができます。木いちごの仲間ですが、食べてもそれほどおいしいものではありません。（個人の感想です）コジキという言葉は今では使わなくなりましたが、元は「乞食・こつじき」という仏教用語です。それが「こじき」となり、余りいい意味では使われなくなりました。茎には細かいトゲがびっしり付いていて、全体が赤く見えます。ご存じの方はキーウィの新芽を思い浮かべるかもしれませんね。



2つめはセンダンがいいかなと思いましたが、これをご覧になる頃には花が終わっているでしょうから、ネジキにしました。透明感のある純白の花がまさに鈴なりに咲いています。ツツジの仲間ですが、サツキなどではなく、ドウダンツツジに似た釣り鐘型の花です。この木の名前はご承知のとおり、樹皮が捻れていることによります。臭う木は「クサギ」茎に穴が空いていたら「ウツギ」酸っぱかったら「スノキ」など、木の名前には、ヒネリのない名前もけっこうありますね。



3つめは草にします。オヤブジラミです。セリ科ですから、ニンジンなどと同じ仲間です。漢字で書くと「雄藪虱」。シラミは年配の方ならご存じと思いますが、体に付くと取り除きにくい虫です。この草の実が衣服に付くと取りにくいので、藪のような草むらに生えるシラミなのです。雄は大きいという意味です。ただのヤブジラミという草もあり、それより実が大きいのです。今はまだ青いですが、実が熟すと、ちょっと草むらを歩いただけで、この丸いひつつき虫がいっぱい付いてきます。



最後は華やかさに欠ける(?)イネ科の雑草です。名前はネズミムギです。イネ科の花は小さな花がいくつか集まってひとかたまりになって、またそれが集まって「穂」を作ります。この草はまっすぐに伸びて、上で少し垂れる姿が特徴的です。元々は牧草として持ち込まれ、それが日本国中に広がった外来植物です。よく似たホソムギというのもあります。それには毛（ほんとは のぎ といいます）がありません。また、比べて見てみてください。

松下